

柑橘の花芽分化に関する調査

長田 一 美

(熊本県果樹試験場)

OSADA, K.

Investigation of the Flower-Bud Differentiation in Citrus Trees.

柑橘の隔年結果を防止し連年多収に導くためには、その花芽分化期を明らかにする必要がある。このため1960及び'61年の両年にわたって調査を行ったので、その'61年度成績の概要を報告する。

調査材料及び方法

当場菊池分場の6年生早生温州(宮川)、普通温州(熊本1号)各10樹あて及び8年生八朔1樹を用いた。調査は大部分の花芽が分化すると思われる1月以降を対象としたので1月6日から4月5日まで10回、確実に着花すると思われる1年生春枝の先端2芽を20~30本あて採る。調査方法は双眼解剖顕微鏡(90倍)を用い鱗片剥皮法によつた。

調査結果及び考察

花芽分化の象徴とその発育の階程は岩崎氏¹⁾のものに準じたが、初生柑橘亜属で総状花序を形成しやすい八朔では、萼片期と花弁期の間に“腋花芽形成期”を設けた。以上による花芽の分化期とその発達の推移は次のとおりである。

早州温州：第1表のとおり採芽初回の1月6日より

第1表 花芽の分化と発達(早生温州)

採芽 月日	調査 芽数	未分 化	分化 初期	分化 中期	萼片 期	花弁 期	雄蕊 期	雌蕊 期	欠芽 数
1. 6	55	46	8	1					0
16	52	37	13	2					1
28	56	25	17	9	5				0
2. 7	57	28	16	11	2				0
18	52	8	7	21	16				0
27	50	18	15	13	4				3
3. 7	50	1	7	27	15				4
17	53			1	52				0
26	63				36	27			0
4. 5	62				4	5	29	24	0

分化期に達したものがあり、催芽期の3月中旬までの2カ月余にわたつて分化が行われ、その最盛期は1月下旬から3月上旬であつた。萼片期に達したものは1月末から現われ、2月中旬以降に多くなつて3月中下旬が最盛期であつた。花弁期は3月下旬から、雄蕊期、雌蕊期は4月上旬から始つている。開花期は5月4~22日で9日前後が満開期であつた。普通温州：早生温州とほとんど同様であるが、1月中旬から分化が盛んに行われ、その終期が1旬ほど遅れて3月下旬に達したものがあつた。開花期もやや遅れて5月6~27日で満開は12日前後であつた。八朔：萼片期まではほとんど普通温州と似ているが、腋花芽の小突起が3月中旬から形成され、花弁期以後の形成は開花が遅いだけに遅れていた。開花期は5月9~27日で満開は15日前後であつた。これらを前年と比較すると、花弁期に達したのが早生温州、普通温州ともに半月、八朔では1旬遅れていた。これは樹の栄養状態の相違とともに本冬の寒気の厳しかつたことと、早春の少雨、低温によつて催芽~展葉が遅れたためと思われる。

以上から当地方における早生温州、普通温州及び八朔の花芽は大部分が1月上旬から3月下旬までに形態的分化を行う。その最盛期は1月中旬から3月上旬(八朔はやや遅れる)までの約2カ月間であり、その発達は天候樹勢などによつて遅速を生ずる。

文 献

- 1) 岩崎藤助・他：東海近畿農試研究報告園芸部 5, (1959), 1~76.